

令和7年度 長野県篠ノ井高等学校犀峽校 学校自己評価結果

学校目標（中長期目標）

① 基礎的・基本的な学力の定着と進路に応じた発展的学力の向上 ② 進路実現に向けた主体的で対話的な学びの場の確立 ③ いじめや体罰のない、一人ひとりが生き生きと活動できる学校づくり ④ 基本的生活習慣の確立と豊かな人間関係を構築できる校風づくり ⑤ 生徒・保護者・地域から信頼され期待に応えられる学校づくり(魅力ある地域キャンパス校の創造)		A できた B C 不足
--	--	--------------------

重点目標・評価項目観点・成果反省・改善策

分野	重点目標	関	評価項目	評価の観点	成果・反省	評価	向上・改善策
進路学習指導	学習意欲を喚起するとともに、基礎学力の定着を図る授業を実践する。	①	授業「総合的な探究の時間」の取り組み 基礎力診断テストや授業評価の活用	基礎学力の伸長がなされたか。 授業評価などの結果をフィードバックできたか。	「総合的な探究の時間」では、学校内外を問わず体験型の学習を継続して行ったり、その成果を犀峽セミナーで発表することで、生徒が自ら学びに向かう姿勢の伸長を図ることができた。	B	総合的な探究の時間を活用した体験学習をより主体的な活動にし、生徒の学習意欲を喚起していく。授業アンケートをもとに授業改善に取り組んでいく。
	学習の習慣化を図り、家庭学習時間増加に結びつくような指導を継続実施する。	②	考查前学習週間の活用、係との進路面談、進路通信の定期発行	考查前を中心に学習時間の伸長が図れたか。	考查前学習週間を活用し、生徒の基礎学力の伸長や苦手教科克服に向けた積極的な取り組みを心がけた。	B	各学年や教科と連携し、教員との相談や面談の時間を取り入れながら基本的生活習慣や家庭学習習慣の定着を推進していきたい。
	キャリア教育の推進と地域社会を担う人材を育成し、個々の生徒に応じたきめ細やかな進路指導を行う。	② ③	係、学年、教科の連携による進路学習指導体制の確立 面談とガイダンスの充実と、担任、教科の情報の連携 地元企業への就業体験活動の実施 すべての生徒の進路実現 マナー教育、SSTの推進	地域と連携したインターンシップへとつなげられたか。 ガイダンスの実施や模試等の結果の情報連携が図られたか。	「デュアルシステム」では地元企業で就業体験を計画し、生徒の職業意識を高めた。外部の方によるSSTや進路ガイダンス、個別面談などを実施した。「基礎力診断今年テスト」などの結果を職員会等で共有し、生徒の進路希望や学力に応じた指導を行った。	A	校内で実施するSSTや進路ガイダンスを引き続き継続していきたい。学校外で行われる進路ガイダンスへの参加をより促し、早期から生徒の進路に対する意識を高めていくことができるようにしたい。
	意欲的に、自ら学ぶ姿勢を育てる授業を実践する。	①	知識注入型の授業から、知識・技能活用型の授業への転換の取り組み 授業評価の活用	ICT機器の活用や「深い学び」を授業に取り入れたか。 生徒に自ら学ぶ姿勢が見られたか。	多くの授業でICTを活用したり、それを生かした発表の場を設けるなどして、教師-生徒だけでなく、生徒間で考えを共有する活動などを通して「深い」学びを実践することができた。	A	ICTを活用しながら、生徒が自分自身の考えを表現したり、他人の考えを聞き、議論する機会をさらに増やしていく。
生徒指導	基本的生活習慣を身につけさせるための指導を日常的、継続的に取り組む。	④	身だしなみやマナー、挨拶等の指導を粘り強く、保護者にも理解を得ながら行う。 校内美化に向けた生徒、職員一体の取り組み	身だしなみやマナーなどの向上が見られたか。	外部講師の方が来校される講演会や生徒総会などの場で、身だしなみを整える指導を行った。職員室への入退室時のマナーもその都度行った。普段の身だしなみが課題に残るが、概ね目標を達成できた。	A	日常生活での身だしなみの大切さ、必要性を理解させ、生徒自らが身だしなみ、マナーを意識した生活を送れるよう継続的に指導していく。
	いじめのない心身ともに健康で安全な学校生活を送れるよう、個々に応じた指導を行う。	③ ④	ソーシャルスキル向上の視点を取り入れた指導の取り組みや職員研修の実施	いじめや体罰のない、健康で安全な学校づくりが進められたか。	生徒への関わりや集団作りの研修等を通して、いじめ・体罰のない安全な学校づくりを進めることができた。	A	研修で学んだことを日々の活動にて実践し、より安全安心な学校づくりを進めていきたい。
特別活動	クラブ活動や生徒会活動を積極的に支援する。	③ ⑤	クラブ加入の促進と、クラブ指導の充実 琅鶴祭など生徒会活動の活発化	生徒会活動、クラブ活動の活性化が進められたか。	クラブ加入促進を担任の協力も得ながら、実践した。生徒会活動も生徒の意見を取り入れ、活動することができた。	B	クラブ加入後のクラブ活動への定着や生徒自らが行う生徒会運営に課題が残るため、指導・助言を継続していく。
	地元小中学校や地域との交流活動を進め、連携を図る。	③ ⑤	授業「総合的な探究の時間」での確かな成果 地域での活動を通して、地域に信頼される学校を目指す	交流活動や地域での活動が地域の信頼に結びついたか。	信州新町小学校との遠足行事、信州新町フェアのボランティア参加、地域人材との交流ができた。	A	信州新町からはもっと本校との関わりを持つことを希望している声もあるので、主に探究授業の中で、関われるポイントを探っていく。
学校運営	学校だより等による保護者地域への情報発信を行い、連携を図る。	⑤	学校だより等の定期的な発行 公開授業、犀峽セミナー等への参加者を増やす取り組み ホームページを用いた情報の発信	保護者や地域へ本校の取り組みが十分伝えられたか。	定期的に学校だよりを発行した。犀峽セミナーの対面参加とWeb参加を行った。定期的にホームページを更新した。	A	学校だよりとHP更新を速やかにしていく、コロナの感染対策をとりながら、参加者の増加に取り組む。他媒体等の情報発信を検討する。